

三菱自動車工業株式会社

証券コード: 7211

三菱自動車からのお知らせ

平成27年度(2015年度)上半期のご報告

2015年4月1日~2015年9月30日

ルート
Route



Drive@earth



持続的成長と企業価値の向上に向けて



取締役会長 兼 CEO Osamu Masuko

益子 修

平素は格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。

2014年4月からの3か年中期経営計画「ニューステージ2016」も今年度上半期を経て折り返し地点を過ぎました。当上半期は前年同期比で増収となったものの、新興国経済の低迷の影響もあり営業利益、経常利益、当期純利益ともに減益となりました。しかし期初計画比では、コスト削減努力も奏功し、全利益項目で計画を上回るなど、各種施策の効果に手ごたえを感じております。引き続き今年度通期の計画達成に向け、努めてまいります。



取締役社長 兼 COO Tetsuro Aikawa

相川 哲郎

当社では、成熟国を中心に進む環境規制の強化を背景に、今後EV(電気自動車)やPHEV(プラグインハイブリッドEV)といった電動車両市場が拡大すると予測しているほか、車種別ではSUVセグメントが、2020年までに最も高い成長率で伸びるとも予測しております。こうした将来の市場環境の変化を的確に捉えながら、当社の得意とするSUVと電動車両の開発にこれまで以上に経営資源を集中させてまいります。

持続的成長と企業価値の向上を実現すべく引き続きまい進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

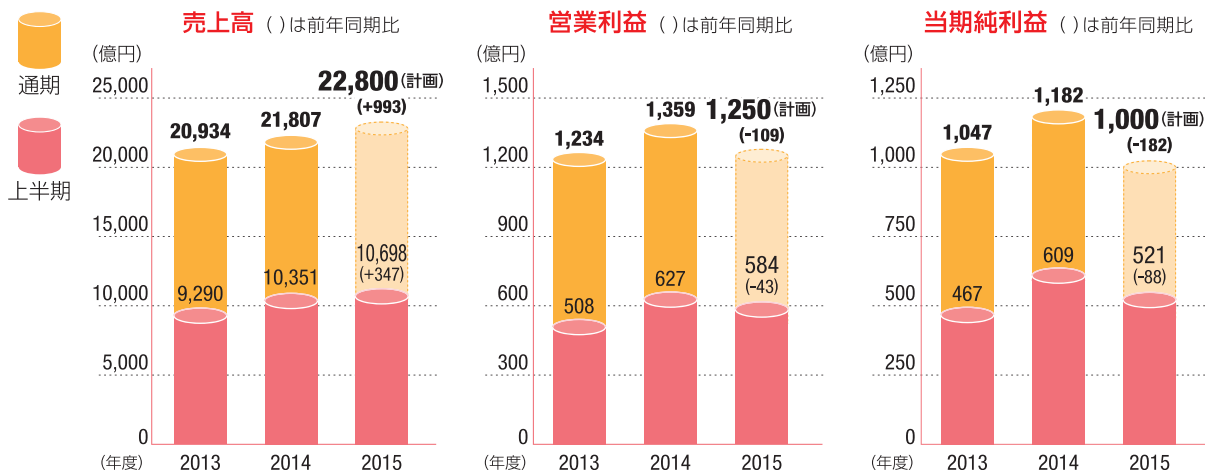
2015年12月

当上半期の業績について

2015年度上半期の売上高は、前年同期比3%増の1兆698億円となりました。営業利益は、コスト低減努力などによるプラスの影響がありましたが、市場措置費用の増加などにより、同7%減の584億円、経常利益は同20%減の585億円、当期純利益は同14%減の521億円となりました。

販売台数は前年同期並みの521千台となりました。日本では『アウトランダーPHEV』『アウトランダー』が牽引し登録車では前年同期を上回ったものの、市場環境が厳しい軽自動車が増減し、前年同期比19%減の46千台となりました。北米では、『アウトランダー』や

『ミラーージュ』を中心に販売が好調に推移したことなどから、同22%増の69千台となりました。欧州では、経済情勢が大幅に悪化したロシアの販売が落ち込んだものの、ドイツやイギリスを中心に西欧で販売を伸ばし、地域全体では104千台と前年同期並みとなりました。アジアでは、停滞が続くタイ経済や2015年に入ってからの中国市場の成長スピード減速の影響などから、地域全体で同9%減の152千台となりました。その他地域では、中東・アフリカ、豪州で販売を伸ばし、地域全体で同11%増の150千台となりました。



*当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約、保証するものではありません。

🍷 当下半期の取り組みについて

日本については、昨年度に引き続き、通期での黒字を目指します。7月に発売した新型『アウトランダーPHEV』は好調な立ち上がりとなりました。引き続き、刷新されたデザインや、更に進化した走行性能をアピールするとともに、クルマからの給電機能など停まっている時でも価値があることをお伝えしてまいります。

北米については、昨年度に黒字転換することができましたが、今年度は更なる利益拡大を図っていきます。好調な『アウトランダースポーツ(日本名:RVR)』に加え、8月に本格販売を開始した新型『アウトランダー』は市場からの評価が高く、下半期はこれを確実にお客様への販売に結びつけるよう、取り組んでまいります。

西欧については、ますます厳しくなる環境規制に的確に対応してまいります。9月から販売を開始した新型『アウトランダーPHEV』は、高い環境性能に加え、SUVならではの実用性、4WDによる走行安定性、大幅なデザイン刷新など、商品力の更なる強化を訴求し、販売を伸ばしていきます。

タイの市況は厳しい状況が続きますが、商品および販売網において着実に競争力を高め、将来の市場回復に備えます。8月に発表した新型『パジェロスポーツ』はデザイン、装

備仕様がお客様から高い評価をいただき、発表後2ヵ月間で1万台を超える事前予約をいただくなど、順調な滑り出しとなりました。これを確実に販売に結びつけられるよう努めてまいります。

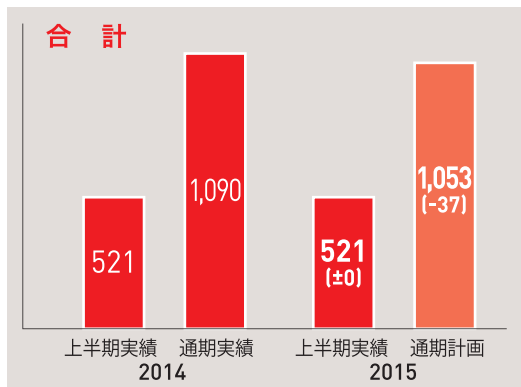
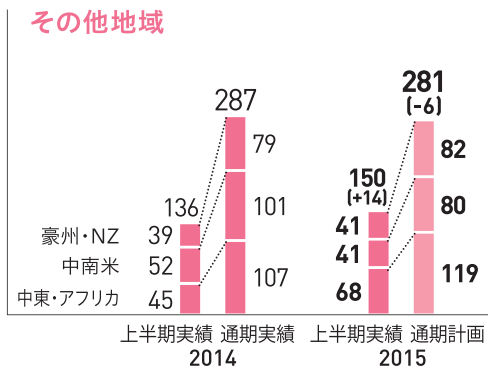
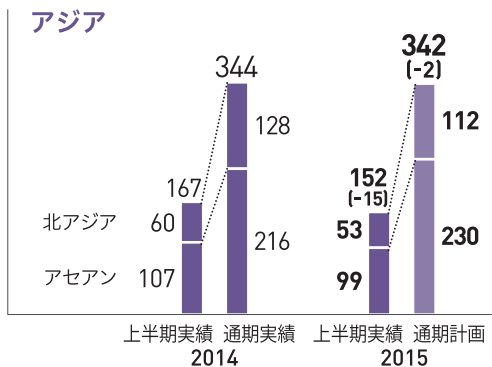
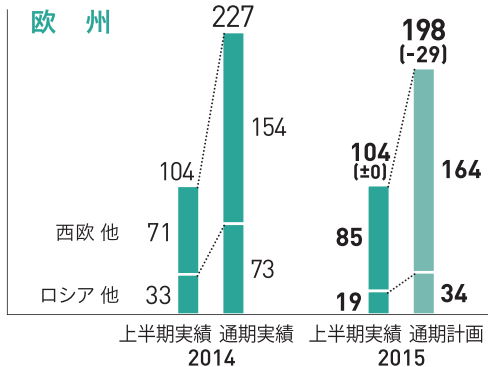
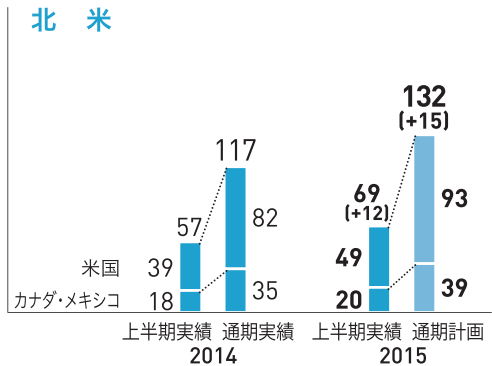
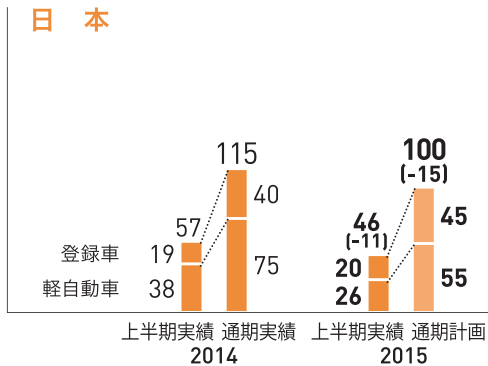
新型『トライトン』については新年式車を投入し、販売台数の伸長を目指します。これに向けて、販売店の更なるサービス向上にも取り組み、販売力強化に努めます。

インドネシアについては、需要が期待ほど伸びておりませんが、将来の潜在力は高いと考えられること、およびアセアンの生産体制を強化するために、新工場への投資を計画通り進めていきます。

フィリピンは、国内経済が好調で当社の販売台数も9月は過去最高を更新しました。タイ、インドネシアと並ぶアセアンの重要国として、販売、生産の両面で更なる基盤強化を図ってまいります。下半期は、第4四半期に主力車種である新型『パジェロスポーツ』を投入し、販売を伸ばしていきます。

このような施策のもと、通期の業績見通しは売上高2兆2,800億円(前期比5%増)、営業利益1,250億円(同8%減)、経常利益1,300億円(同14%減)、当期純利益1,000億円(同15%減)を見込んでいます。

地域別販売台数 (単位:千台/年度) ()は前年同期比



*当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約、保証するものではありません。

→ 2015年東京モーターショーで、次世代EVシステムを採用したコンパクトSUVのコンセプトカーを世界初披露



『MITSUBISHI eX Concept』

当社は、2015年10月28日～11月8日まで、東京ビッグサイトで開催された第44回東京モーターショー2015において、「Driving Beyond SUVと電気ので、一步先へ。」をテーマに、次世代EVシステムを採用したコンパクトSUVのコンセプトカー『MITSUBISHI eX¹ Concept』を出品しました。『MITSUBISHI eX Concept』では、三菱自動車ならではの電動化技術と四輪制御技術に加え、コネクティッドカー技術と予防安全技術を組み合わせた自動運転技術などを採用。内外装においても、これからの三菱自動車のデザインの方向性を示しました。

東京モーターショーでは、このほかにプラグインハイブリッドEV『アウトランダー

PHEV』のクロスカントリーラリー^{*2}参戦車や三菱自動車の電気自動車研究開発50周年を記念したラッピングを施した『アイ・ミーブ』など、合計15台を出品しました。

また、東京モーターショーのテーマ事業であるスマートモビリティシティでは、“電動車両のある1日”をテーマに、『アウトランダーPHEV』とV2H^{*3}機器を用いて家庭でのエネルギーの流れを再現し、電動車両の「停まっている時の価値」について解説。「自動運転デモンストラーション（高度運転支援システム）」で

は、三菱電機株式会社と共同研究中の自動運転体験試乗車（『アウトランダーPHEV』）を出品し、先行車を検知して追従する低速追従走行機能や、駐車スペースや障害物を検出して自動で縦列駐車を行うリモート自動駐車機能の体験プログラムをご用意しました。



プレスカンファレンスの様子

*1: eX...electric X(cross)-over の略。

*2: バハ・ポルトアレグレ500...2015年10月22日～24日、ポルトガルで開催されたラリー。

*3: V2H...Vehicle to Home の略。自動車と住宅との相互電力供給。

→ 新型『パジェロスポーツ』、タイで販売開始

当社は、タイのラムチャバン工場で生産しているミッドサイズSUV『パジェロスポーツ』を7年ぶりにフルモデルチェンジし、2015年10月からタイで販売を開始しました。新型『パジェロスポーツ』は、「Stylish & Comfortable OFFROAD SUV」をコンセプトに、『パジェロ』ブランドを継承した本格的なオフロードSUVでありながら、洗練された上質なデザイン、上質な走りと快適な居住空間、クラストップレベルの環境性能、先進の予防安全装備などを持ち合わせた新世代のミッドサイズSUVです。フロントでは“人とクルマを守る”機能を表現した新しいデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を採用。サスペンションの見直しやボディマウントの



高級感のあるスポーティなコックピット

改良により、操縦安定性、乗り心地、静粛性を同時に向上。エンジンは、2.4L MIVECディーゼルターボエンジンを新たに採用し、『パジェロスポーツ』用に新開発された8速AT（三菱車初）と組み合わせることで、先代モデルに対して燃費を約17%向上させ、2016年1月

よりタイで施行される新税制においてCO₂排出量の最低税区分に適合する200g/km以下を達成しています。衝突安全強化ボディや7つのSRSエアバッグによるパッシブセーフティ、そして三菱車初となる後側方死角警報システムや電動パーキングブレーキなど、先進装備を多数採用しています。今後、豪州、アセアン、中東、アフリカ、中南米、ロシアなどへも順次展開を拡大し、先代モデルと同様に約90カ国で販売する計画です。



新型『パジェロスポーツ』

→ 新型『アウトランダー』/新型『アウトランダーPHEV』を発売



新型『アウトランダーPHEV』

当社は、2015年6月、7月に新型『アウトランダー』、新型『アウトランダーPHEV』の販売

をそれぞれ開始しました。三菱自動車の新しいフロントデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を採用しフロントフェイスを一新。また、パワートレイン、ボディ、シャシーなどにも大幅な改良を加えることで、加速性、操縦安定性、乗り心地、燃費などの向上を図りました。更に、吸音材や遮音材、制振材の追加などにより、エンジン音、ロードノイズ、風切り音を大幅に低減。走行時、停車時の遮音性を向上させ、快適な室内空間を実現しました。『アウトランダーPHEV』では、モーター効率の向上により電気のみでの走行可能距離を60.8kmまで伸ばし、環境性能においても改善を図りました。

→ 大幅改良を加えた軽自動車『eKカスタム』『eKワゴン』を発売

当社は、2015年10月に、大幅な改良を施したトールワゴンタイプの軽自動車『eKカスタム』『eKワゴン』を新たに発売しました。『eKカスタム』には新しいフロントデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を採用するとともに、夜間でも存在感を発揮するLEDイルミネーションをフロントバンパーに搭載しました。『eKワゴン』ではボディカラー展開を見直し、新たに3色を設定しました(全9色)。機能面では、『eKカスタム』『eKワゴン』ともに、夜間走行時の利便性と安全性を高めるために、先行車や対向車のランプなど道路周辺の明るさを検知してハイビームとロー



『eKカスタム』

ビームを自動で切り替えるヘッドライトシステム「オートマチックハイビーム」を軽自動車ですべて初めて採用するなど、商品力の強化を図りました。

→ 『アウトランダーPHEV』、『アジアクロスカンントリーラリー』3年連続完走、 クロスカンントリーラリー「バハ・ポルタレグレ500」に初参戦

『アウトランダーPHEV』が、2015年8月にタイ北部で開催された「アジアクロスカンントリーラリー2015」に出場。走行距離約2,400kmの過酷なコースを40時間01分51秒で走り切り、総合20位、T1-3クラス（電気自動車クラス）優勝を果たしました。『アウトランダーPHEV』は同ラリーで3年連続完走を果たし、信頼性・耐久性および走破性の高さを実証しました。

また2015年10月には、ポルトガルの古都ポルタレグレで開催されたクロスカンントリーラリー「バハ・ポルタレグレ500」に『アウトランダーPHEV』が初参戦。そこでも雨で非常に滑りやす

い路面を難なくクリアする走りを見せ、オフロードでのPHEVの有効性および走行性能の高さを証明しました。



「バハ・ポルタレグレ500」参戦車

→ 2015年度株主様向け埼玉スタジアム見学会のご報告

2015年9月、当社関連会社である浦和レッズのホームスタジアム「埼玉スタジアム2002」において株主様向けスタジアム見学会を2日間、計4回実施し、多数のご応募の中から抽選で選ばれた118名の皆様にご参加いただき

ました。

当日は、選手の控室やピッチサイドなど普段は見ることのできないエリアを、ご見学いただいた後、当社役員から経営概況等の説明をいたしました。

当社の事業、スポーツを通じたCSR活動へのご理解を深めていただくため、今後もこのようなイベントを継続的に実施していく予定です。



普段は下りることのできないピッチサイド



選手が実際に使用しているロッカールーム



浦和レッズ社長と株主様との交流


→ 会社の概要 (平成27年9月30日現在)

社名… 三菱自動車工業株式会社
 本社… 〒108-8410
 東京都港区芝五丁目33番8号
 TEL : 03-3456-1111 (大代表)
 設立… 昭和45年4月22日
 従業員数… 連結: 30,669名 単独: 13,141名
 資本金… 165,701,243,103円

役員 (平成27年9月30日現在)

取締役	益子 修*	取締役会長 兼CEO	服部 俊彦	取締役
	相川 哲郎*	取締役社長 兼COO	泉澤 清次	取締役
	春成 敬*	取締役副社長	安藤 剛史	取締役
	中尾 龍吾*	取締役副社長	佐々木 幹夫	取締役 (三菱商事株式会社相談役)
	上杉 雅勇	取締役副社長	坂本 春生	取締役
	青砥 修一	常務取締役	宮永 俊一	取締役 (三菱重工業株式会社 取締役社長、CEO)
	田畑 豊	常務取締役	新浪 剛史	取締役 (サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長)
監査役	福田 滝太郎	監査役 (常勤)	岩波 利光	監査役 (日本電気株式会社 特別顧問)
	中村 義和	監査役 (常勤)	竹岡 八重子	監査役 (光和総合法律事務所 弁護士)
	永易 克典	監査役 (株式会社三菱東京UFJ銀行 取締役会長)		

- 注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
 2. 取締役 佐々木幹夫氏、坂本春生氏、宮永俊一氏、および新浪剛史氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
 3. 監査役 永易克典氏、岩波利光氏、および竹岡八重子氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

 表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。
 表紙：三菱自動車 デザイン本部 熊谷周作



→ 株式情報 (平成27年9月30日現在)

発行可能株式総数 1,575,000,000株

発行済株式総数 983,661,919株

株主数 314,723名

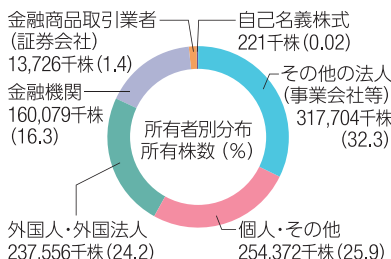
大株主 (平成27年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三菱重工業株式会社	124,293,855	12.63
三菱商事株式会社	99,044,251	10.06
MHIオートモーティブキャピタル合同会社MMC株式運用匿名組合1	38,638,625	3.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	38,517,159	3.91
MHIオートモーティブキャピタル合同会社MMC株式運用匿名組合2	33,968,253	3.45

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,023,400	2.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,785,600	1.80
JP MORGAN CHASE BANK 385632	16,521,186	1.67
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	12,968,379	1.31
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	12,266,422	1.24

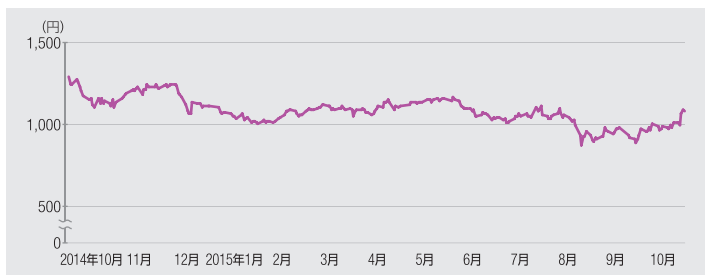
所有者別株式分布状況

(平成27年9月30日現在)



株価の推移

(平成27年10月31日現在) ■ 三菱自動車株価(調整後/終値)



株式手続のご案内

- 事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会
開催時期……………毎年6月
- 同総会議決権
行使株主確定日……………3月31日
- 期末配当金
支払株主確定日……………3月31日
- 中間配当金
支払株主確定日……………9月30日
- その他の基準日……………上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
- 公告の方法……………電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

(公告掲載アドレス) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html>

- 1単元の株式数……………100株
- 証券コード……………7211
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
……………三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所……………三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- 郵便物送付先……………三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711(フリーダイヤル)

- ※ 住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について
1. 証券会社等の口座をご利用の場合
…お取引の証券会社等にお問い合わせください。
 2. 『特別口座』に記録されている場合
…三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問い合わせください。